S42年

ホンダニュース（八月十七日号）

"ラリーの神様"来日

ホンダN360の素晴らしさに感嘆！

スエーデンの「サーブ」の専属ドライバーとして、モンテカルロはじめ、数々のラリーに入賞し、世界中から「ラリーの神様」と崇拝されるエリック・カールソン氏が、八月一五日、本田技術研究所（埼玉県大和町）を訪れ、本田宗一郎社長と会談した。

例のごとく、作業服姿で表われた本田社長に、ホンダN360の印象を聞かれてカールソン氏は次のように語つた。

「これだけ小さなエンジンでパワーフルなだけでなく音が静かなことに驚いた。しかもFFでありながら、パワーオフ、パワーオンにかかわらず、ステアリング傾向がニュートラルに設計されていて、ロードホールディングが素晴らしく、同じ形式のヨーロッパ車をはるかにしのいでいる。この点ではホンダの技術に感心した。」

「特に室内の広さは外観よりゆつたりしていて、これなら世界の国民車として十分通用する。N600が今秋ヨーロッパに輸出されるそうだが、ラリー界でも大きな話題になるだろう」

なお、カールソン氏は身長191cm、体重120Kgと、日本なら大鵬なみの巨漢。それだけにN360の居住性のよさには驚いたようだ。

続いて極秘といわれる所内のFIレーサー、二輪レーサーの開発部門までを案内され、フォードなどの研究部門と比較して、その研究の密度の濃さに「ファンタステイック！」を連発。

試乗させてもらつたモンキー（折畳式超小型オートバイ）が、OHCエンジンだと説明されて、

「50ccでOHCなんて考えられない……」

と信じなかつたカールソン氏も、社長に、「ホンダの二輪、四輪は全部OHCだよ」と言われて、改めてエンジンを見直し、さらに、ホンダ携帯発電機E80（二〇cc）の4サイクル2バルブに至つては、

「私の小指より小さい！」

と思わず感嘆の声を発した。

会見を終つたカールソン氏は、

「今後出場するラリーのお守りにします」と、E80の二本のバルブを大事そうに、胸のポケットに納めて帰つていつた。

※エリック・カールソン氏は、一一日に来日、一二、一三の両日、BCCA主催の「才一回カールソン杯争奪戦」（コース、東京ー軽井沢）に名誉競技長として、スタートフラッグを振り、約五百キロのコースの殆んどをホンダ提供のN360で走破した。120キロのカールソン氏の横に95キロの友人、さらに後席にスエーデン代理大使も乗せた"ヘビー・ウエイト"のまま、岩石と砂の"極悪道"をFFとチャンピオンの腕にものを言わせてつつ走り、その迫力に改めてラリー参加者を驚かせた。

※エリック・カールソン氏略歴

スエーデン人。三十九歳。

一九四七年、オートバイレースに参加してから、レース経験は二〇年に達する。ラリーには一九五三年から参加し始め、「サーブ」の専属ドライバーとして一四年間、各地のレースで活躍し続けている。サファリ、モンテカルロ、ソフイア、リエージュなど大レースで常に上位を占め、「ラリーの神様」として、スエーデンの国民的英雄である。夫人バット・モス（スターリング・モスの実妹）女流ラリードライバーとして有名。

○レース成績

○一九五五年　スエーデン国内ラリーで初優勝
○一九六二年六三年　モンテカルロラリー連続優勝
○一九六四年　サファリラリー2位入賞

その他五八年から六二年にかけてR・A・Cイギリス・ギリシヤ・ドイツ・フインランド・ユーゴスラビアの各ラリーで優勝。

また、アイスエンドトラックレーシングのスエーデンチャンピオンシップを持ちつづけている。